テーブルの向こう側から　補足資料
～Vol.31 ～

2019年9月発行

TABLE FOR TWO(TFT) プログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTFTプログラム実施のため、多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。

TFTの活動は日本でのヘルシーな食生活の推進と、支援先での学校給食の提供が両輪になっています。ニュースレター「テーブルの向こう側から」では、支援先の様子と日本国内のTFTプログラムご参加団体のユニークなお取り組みについてお伝えしています。

食堂をご利用される皆さまに親しんでいただけるよう、改良を重ねてまいりたいと考えております。皆様からのご意見やご感想をお聞かせいただけますと幸いです。

ルワンダ　バンダ村での給食プログラム

TFTは2010年よりルワンダのバンダ村で学校給食を提供しています。バンダ村は首都から離れた無電化地域のため、ルワンダ国内でも貧困率の高い地区の一つです。TFTは村の幼稚園3園と小学校2校、中学校1校で毎日約2,200名の生徒・園児に給食を提供しています。

この補足資料では、学校に通う子どもたちの様子をお届けします。

日本国内での活動状況のお知らせ

＜これまでに寄せられたご寄付＞　＊TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

累計 7,178万4194食分（2019年7月時点）

東アフリカとアジアの６カ国（ウガンダ、エチオピア、ケニア、タンザニア、ルワンダ、フィリピン）で学校給食の提供と菜園・農業支援を推進しています。

＜今年も「おにぎりアクション2019」を開催します！＞

10月16日の世界食料デーを記念して、「おにぎりアクション2019」を開催します。

おにぎりの写真1枚の投稿につき、アフリカ・アジアの子どもたちに給食5食を届けることができるソーシャルアクションです。日本の食を通じて世界を変えたい”との想いから始まったこの取り組みは、今年で5年目を迎え、これまでに300万食の給食を届けています。

今年は、10月7日（月）から11月20日（水）まで実施します。ぜひご参加ください。

Facebookページで情報発信中

www.facebook.com/tft.jp/

＊ 速報値のため、最終的な結果は現在集計中です。

補足資料の2ページ目以降は掲示板への掲出や、卓上POPとしてご利用いただけます。「テーブルの向こう側から」の本紙、補足資料ともに、TFTのウェブサイト（http://jp.tablefor2.org/popup/bulletin.html）からダウンロードしてご利用いただけます。

ルワンダ バンダ村の様子

バンダ村は山々に囲まれた大自然の中にある農村です。首都から車で6時間の場所に位置し、最寄りの街に行くにも舗装されていない道路をバイクで1時間以上かけて向かいます。雨天時は道のぬかるみがひどいため、バイクが使えず、歩いて山を登り、何時間もかけて行き来します。

世帯のほとんどが農家として生計を立て、現金収入1ドル以下で暮らしています。街に出るインフラが整っていない為、収穫した野菜を簡単にマーケットに売りに行くことが出来ず、経済的な発展が難しい地域です。TABLE FOR TWOによる支援開始前は、20%の子どもたちが5歳まで生きることができませんでした。

村で１番栄えている大通り

自分たちの力で生きる子どもたち

村では、子どもたちがさらに幼い子を連れて歩き、学校に通い、遊んでいる姿をよく見かけます。中には、一人でヤギを追い、深い山道を歩く二歳の子もいます。「Children grow up themselves（子どもたちは自分たちの力で生きていかなければならない）」と現地の提携スタッフは話します。
1日に1食しか食べられない事も多く、道端の作物をもぎ取って空腹を満たします。

この子たちが自分の力だけで生きていけるのでしょうか。

村全体に大きな影響を与える学校給食

TABLE FOR TWO

2013年にTABLE FOR TWOの寄付により作られた給食室は、村で一番立派な施設です。たくさんの給食を一気に作ることができ、作られた給食は近隣の学校に運ばれていきます。給食を運ぶスタッフは日給を得ることができ、収入の向上にも繋がっています。「一杯の温かい給食が、私たちの生活を、村を、変えてくれた。」村の子どもたち、先生、親。皆が口を揃えます。

給食が運ばれてくると、子どもたちは大喜びで給食を迎えます。以前は3人に1人が小学校をドロップアウトしていましたが、1杯の給食によって出席率はほぼ100%になりました。
学校給食が子どもたちの教育機会につながり、教育は子どもたちにとって未来への希望になっています。

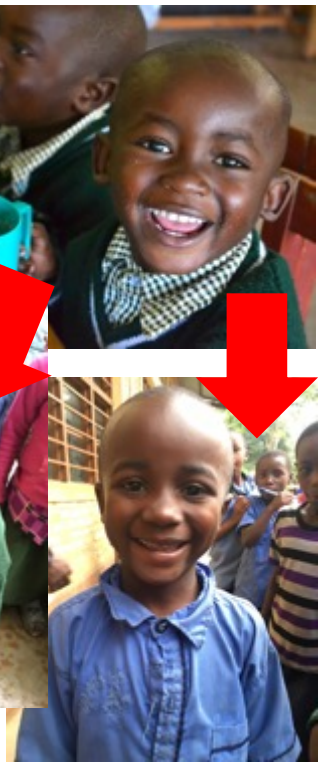
すくすく成長する子どもたち

支援の力で、子どもたちは幼少期に栄養失調になることを防ぐことができています。前回（2年前）の視察時と比較すると、元気に育っている様子がわかります。

２年前訪問した際とびきりの笑顔を見せてくれた、Kavine（キャビーン）ちゃん。

目の輝きはそのまま、しっかり大きくなっていました。

Bruno（ブルーノ）くん



Wellum（ウェルム）くん

TABLE FOR TWO

栄養失調の子ども向け特別食プログラム

栄養失調と判断された子どもに向けて、約４か月の特別食プログラムを提供しています。家庭訪問で二の腕の細さを測り、一定数値を下回ると特別食対象者となります。学校給食だけでは栄養失調は改善しないので、家庭訪問をし、キッチンや家庭菜園の作り方を教え、自宅でもしっかりと栄養をとることができるようサポートを行っています。これまでに400人が本プログラムを卒業しています。

幼少期の栄養状態はその後の健康状態を大きく左右する為、特別食プログラムは重要な役割を果たしています。

村で初めての大学進学者

ジェラルドくんは昨年、奨学金を得て、村で初めて大学へ進学する事ができました。

「学校給食のお陰で、食べるために働きに出ることなく勉強に集中できるようになり、人生が大きく変わりました。給食提供が始まったばかりの頃、すぐに支援は終わってしまうだろうと思っていました。しかし、支援は継続し、自分たちの成長を遠く離れた日本の人たちが見守ってくれていると実感しました。今度は自分たちの世代が、貧困から抜け出す原動力となりたいです。」と語ってくれました。

ジェラルドくんは小学生の時に一度、経済的な事情から学校を中退して街に出稼ぎに行っていました。
給食提供をきっかけに学校に戻る事ができた一人です。
現在、村には4人の大学進学者がいます。

現地提携パートナーと行う多角的な支援

CHW (Community Health Worker)、給食スタッフ、運搬スタッフの日々の連携により、給食作り・運搬・配膳が持続的に行われています。
また、CHWは月・水・金は特別食の提供、火・木は家庭訪問を実施しています。

子どもたちには学校給食の提供だけでなく食前の手洗い、食後の歯磨きなど衛生指導も行っています。

支援から自立に向けて

給食の調理に薪を使う代わりに、おがくずなどのゴミを再利用して作った固形燃料（ブリケット）を使用し、 森林の伐採を防いでいます。
バンダ村では、ブリケットを作り始めてから薪の使用を3分の２の量に 削減でき、環境保全につながっています。

菜園では収穫量を増やす為に様々な工夫をしています。例えば、盛り土で栽培すると、土地面積に対して多くの作物を作り、水の浸透をよくすることができます。
栽培・収穫したものは学校給食に活用するだけでなく、村の人に菜園指導を行い苗を提供しています。